

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、
よりよい人間関係を築く力を育む特別活動の在り方
ーコロナ禍における児童が自主的、実践的に取り組む特別活動の工夫ー

日立市立櫛形小学校

1 はじめに

本校は、149年の歴史と伝統のある学校である。児童数は716人であり、特別支援学級を含む33学級（通級6教室）の大規模校である。住宅地が多いものの、自然豊かで、ビオトープなどの教育資源、スクールボランティアなどの地域の方々の協力体制も充実している。

2 実践事例

（1）子ども主体の児童会活動

児童の問題意識を高め、成長する喜びを実感し、個人や集団がよりよくなるために自分ができることを考えて実践していこうとする児童の育成を目指すために、児童会活動において、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を意識した取り組みを行った。今年度は、特に感染症拡大防止という視点を大切に、児童の考えを尊重しながら、「やりたいこと」と「できること」との折り合いをつけ、児童会活動を行うようにした。

ア 「1年生を元気に」ー1年生を迎える会ー

初めての小学校生活に不安がある1年生に喜んでもらえるように、2～6年生が教室周辺の飾り付けや、お祝いのメッセージを送った。各学年で動画を撮影し、リモートでメッセージを視聴した。どの学年も工夫を凝らした内容になっており、心のこもった会となった。また、運営委員会の児童が主導で、学校の過ごし方について全校で確認したいことを出し合い、劇を演じた。劇の中で「安全に生活して、よりよい櫛形小学校にしていきましょう」と呼びかけることで、学校生活におけるルールを再確認することができ、各学級での指導に生かすことができた。

イ 「みんなの学校を大切に」ー創立記念集会ー

7月7日の創立記念日を祝う集会に向け、運営委員会の児童が櫛形小学校の歴史を調べ、プレゼンテーションソフトにまとめて紹介した。集会では歴史に関するクイズを出題することで、興味をもって歴史にふれることができた。集会後、「長く続いている櫛形小の伝統を守るために、一生懸命清掃活動に取り組もう」など発言している児童が見られ、学校生活をよりよくしようとする態度を高めることができた。

3 成果と課題

学校行事と児童会活動を関連させ、意図的・計画的に活動を行うことで、全校児童に「よりよくしっ子になりたい」「よりよい学級にしたい」「よりよい学校にしたい」という意識や態度を高めることができた。

感染症拡大防止のために、学校行事や児童会活動をリモートで実施するなどの工夫をしてきたが、逆にそのことで、企画・運営の際に多くの時間や労力がかかっていることもある。内容をより精選し、効果的な指導を行う必要性がある。